



# 社会生活基本調査の結果が

広島大学 大学院教育学研究科 教授 <sup>ひら</sup> <sup>た</sup> <sup>みち</sup> <sup>のり</sup> **平田 道憲**

## ① はじめに

2006年10月に社会生活基本調査が実施されます。社会生活基本調査は国民の1日の生活時間と1年間の生活行動を調査しています。私は主として生活時間の研究に従事してきましたので、生活時間に関する調査結果を利用してきました。そのような研究の

一部は大学の授業でも活用しています。ここでは、私の授業のなかで、受講生に家庭生活を考えさせるために利用している結果を二つだけ紹介してみたいと思います。

## ② -1 夫と妻の家事労働時間

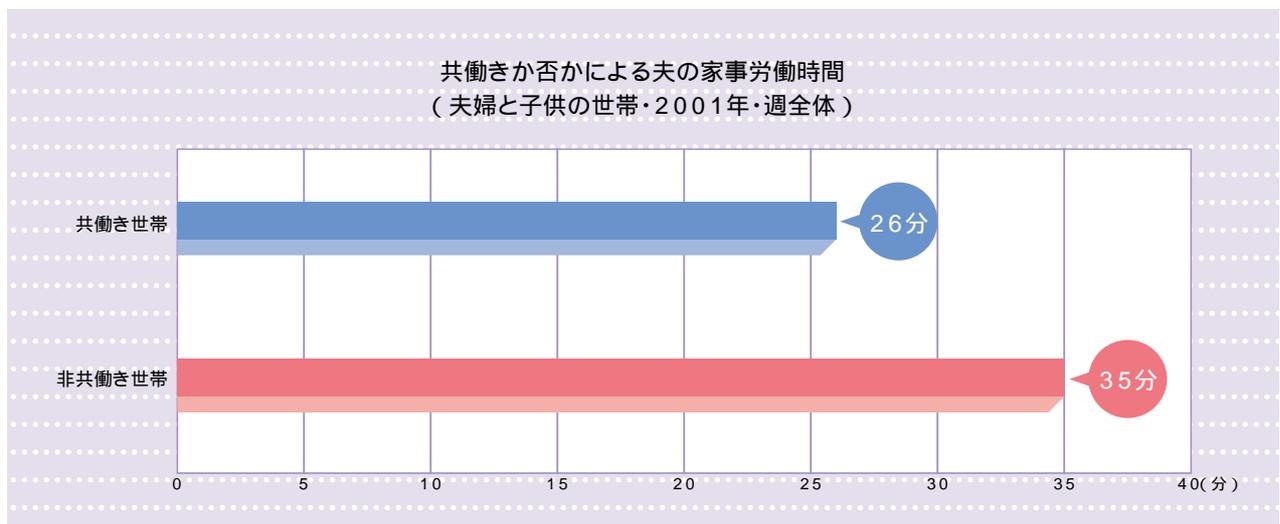
2001年の調査結果によれば、有業の夫の家事労働時間は週全体で28分、有業の妻は4時間1分、無業の妻は6時間12分です。ここでの家事労働時間というのは社会生活基本調査の「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の合計です。週全体というのは、

平日・土曜日・日曜日を重み付けして平均した数値のことです。社会生活基本調査の結果と諸外国の生活時間調査の結果を比較すると、日本の有業の夫の家事労働時間は世界で最も短いグループに含まれます。

## ② -2 共働き世帯と非共働き世帯の夫の家事労働時間

有業の夫の家事労働時間が短いことはわかりましたが、共働き世帯の夫は非共働き世帯(夫が有業で妻が無業の世帯)の夫よりは家事労働時間が長いのではないのでしょうか。なぜなら有業の妻は職業労働と家事労働の二つの労働の負担を強いられているの

ですから。図は夫婦と子供の世帯について、共働き世帯と非共働き世帯の夫の家事労働時間を比較したのですが、共働き世帯のほうが短いという、予想に反する結果になっています。





### ③ おわりに

社会生活基本調査は、生活時間に関していえば、世界で最大の調査対象者数をもつ調査です。私が所属する国際生活時間学会でもこのことはよく知られていることであり、誇りにしていることだと思えます。これも、調査にこころよく協力して下さる調査対象

者の方々をはじめ、調査票の配布・回収にあたる調査員の方々や都道府県の担当者、総務省統計局の担当者みなさまのご理解、ご協力のおかげだと思います。こうした方々に感謝の意を表するとともに、貴重なデータを有効に活用したいと考えています。

